

さかい利晶の杜でわび茶会とアート茶会を開催します －万博レガシーを活かした新たな文化体験の実証事業を実施－

堺市は、商業施設・文化施設の空間づくりやアート・工芸作品のプラットフォーム「B-OWND」を運営する株式会社丹青社（東京都港区港南1-2-70 品川シーズンテラス 19F 代表取締役社長 小林 統）と連携し、大阪・関西万博の堺市主催催事で来場者から高い評価を得た茶の湯体験を万博レガシーとした、市内での実装をめざす実証事業を行います。

本事業では、町衆が育んだ「自由の精神」が息づき、伝統を大切にしながらも新しい文化を受け入れて発展してきた堺ならではの伝統と革新を感じられる茶会を開催し、堺の茶の湯文化を発信します。また、体験者へのヒアリング調査等を通じて主にインバウンドに向けた高付加価値な文化体験としての可能性を検証します。

1 実施内容

日程	令和8年3月1日（日）、3月3日（火）
場所	さかい利晶の杜 「さかい待庵」、「無一庵」（堺市堺区宿院町西 2-1-1）
対象	国内外富裕層、旅行会社、ホテル関係者等の招待者
内容	<p>（1）利休好みの「わび茶会」</p> <p>千利休作として唯一現存し、わびの思想を表現したとされる国宝「待庵」。その創建当初の姿を忠実に復元した茶室「さかい待庵」を舞台に、黒樂茶碗、涙の茶杓等の茶道具や当時から供される茶菓子を用いた静謐な茶会（呈茶）を開催します。</p> <p>（「さかい待庵」は、通常見学のみを実施）</p> <p>（2）古賀崇洋コラボレーション「アート茶会」</p> <p>豊臣秀吉が主催し、身分や出身を超えて参加が呼びかけられ、参加者が茶席を持つことが許された北野大茶湯。そこで千利休が構えた茶席を再現した茶室「無一庵」を舞台に、「NEO WABI-SABI」を掲げて制作される古賀氏の作品をふんだんに用いた、現代的アートと茶の湯が交差する茶会（抹茶点て体験）を開催します。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">（さかい待庵）</p> <p style="text-align: center;">（古賀氏のアート茶器）</p>
主催等	主催：堺市 協力：株式会社丹青社、さかい利晶の杜、堺観光コンベンション協会

※一般向けには、アート茶会・「さかい待庵」見学・さかい利晶の杜の観覧がセットになった特別プランを 3 月 7 日

(土) 限定で販売します。ご希望の方は、以下のさかい利晶の杜イベントページをご確認ください。

https://sakai-rishonomori.com/pages/103?detail=1&b_id=574&r_id=635#block574

なお、国内外富裕層を対象におおさか堺バルーン等を巡る市内モニターツアーを開催し、体験者の意見を今後の観光コンテンツの磨き上げに活用します。

2 古賀崇洋氏プロフィール

福岡県出身の陶芸家。「Forbes JAPAN CULTURE-PRENEURS 30 2025」選出。千利休をリスペクトし、静けさを重んじる従来の日本の美意識とは対照的なスタッフをあえて用いたアートで注目を集め。挑戦的な作風が国内外で高く評価され、スポーツブランドやアニメ作品とのコラボや NFT 展開を実現。近年は、そうした対極的な文化を併せ持つ「NEO WABI-SABI」を新たなテーマに掲げて活動し、工芸界の常識を逸脱した表現で、多様な日本文化に通ずる美意識を表現しています。



3 実施経緯

堺市は、令和 7 年 5 月 10 日～13 日に 2025 年大阪・関西万博で堺市主催催事（春期）として、茶道三千家による大茶会と、四代田辺竹雲斎氏や古賀氏等の現代アーティストとコラボレーションしたアート茶会を開催しました。同茶会では、堺で生まれ育った千利休がめざしたわび茶と堺の自由の精神を発信し、約 1 万 8 千人の来場者が訪れる人気の文化体験となりました。また、堺市と経済団体等で構成する『「2025 年大阪・関西万博」堺プロジェクト推進会議』においても、「アート茶会などの万博で明確化した人気の高い伝統文化体験をレガシーとして継承・活用し、堺の未来につなげること」を確認し、市内での実装に取り組んでいます。

4 同時開催イベント 『古賀崇洋 展「破・わびさび | in Sakai: Birthplace of Rikyū」』

日程	令和 8 年 3 月 1 日 (日)～3 月 7 日 (土) 午前 9 時 30 分～午後 5 時 30 分 ※3 月 7 日 (土) は午後 3 時まで
場所	さかい利晶の杜 茶室広間（堺市堺区宿院町西 2-1-1）
内容	アート茶会で使用する茶器の作家・古賀崇洋氏による企画展が同時開催されます。 詳細は以下の株式会社丹青社プレスリリースをご確認ください。 https://www.tanseisha.co.jp/news/release/2026
観覧料	無料
主催	株式会社丹青社

問い合わせ先	(本事業の内容に関すること)
	担当課：市長公室 政策企画部 広域連携課 電話：072-222-0380 ファックス：072-222-9694
	(さかい利晶の杜に関すること) 担当課：文化観光局 文化国際部 文化課 電話：072-228-7143 ファックス：072-228-8174
(市内モニターツアーに関すること)	
担当課：文化観光局 観光部 観光推進課 電話：072-228-7493 ファックス：072-228-7342	